

ス
リ
ッ
プ

カブリッヅキ

隔月連載

有賀美雪の

楽屋育ちのひとりごと 15



「歳をとるって素敵なこと」

お久しぶりでございます。有賀美雪です。今年ももうすぐ半分が過ぎてしまいますね。この仕事をしていると、毎日がアツという間に終わってしまいます。近頃の有賀は、1日24時間休む間もなくまた一日という感じで、これが世間一般で言われている「20歳を過ぎると、アツという間」ということなのでしょう。あゝあ、気持ちはまだまだ10代のままなのにね。

でも私は自分が年をとっていくのって、キライじゃないんだよ。若いとか、年寄りだとかって、何を基準に言うのかは知らないけど、私は若さって、自分の世界しか知らなくて、何に対しても怖いもの知らずだと思うの。だから自分自身も傷ついちゃうし、もちろん相手だって傷つける。

そうすると、年をとっていくこ

とって、自分も相手も傷つけてきただけに、何度も同じ傷を相手にかけないようにするし、自分だって過去の痛みになれてきただけに、その傷に対して強くなれるわけでしょう。私は、年を重ねていくのって、人に気配りや思いやりを持てることだと思うの。だから年をとることはイヤじゃないな。

でも、他のお姐さんたちからは「美雪姐さんって、苦労してるのが顔に出ていますよ」とか、ここしばらくの間に、笑いジワが出てきたね」なんて言われると、ちょっとショック。がつくりとは来ないけど、きょとんとしてしまつたわ。自分の顔もいつかはしわくちゃのおばあちゃん顔になる日は必ず来るに決まっているけど、とても想像付かないもんね。

10年後、20年後、30年後の有賀

はどうなっているんだろうか。30年後って、それでも52歳か。まあ、今からパッチリお肌の手入れして、エステにでも通っていれば、10歳くらいは若く見えるかな。その頃にはストリップをやっではないないだろうな。

でも私からストリップをとったら、何の生きがいがあるんだろうか。だからもし、自分が年をとっても、この世にストリップというものが存在しているのなら、そこで裏方のお仕事でもしたいな。表で光輝くのももちろん素敵だけど、この仕事はやっぱり裏方さんがあってこそ成り立つもの。それに自分が携わった踊り子さんが注目を浴びるような存在になったら、それはすっごくうれしいことだと思ふんだ。それを考えると、自分は裏方の方が性にあってるんじゃないかと、最近ちらりと思うんだ。ちよつとかつこ良すぎるかもしれないけど、何かを作っていくアーティストでいたいという気持ちは、いつも心から離れない。

まあ、ダンサーとして使いものにならなくなったら、どっかの電機室か食堂のおばさんでもやっていくかもね。ちなみに新人の教育係でも担当してさ。でも、ものすごく口うるさいおばさんになって、入る女の子が次々と辞めちゃうかもね。あつはつは。

有賀って、けっこうオタクなと

ころがあるから、こんな訳の分からないことを1日中考えているけど、あれこれ悩むよりも、まず明日のことが大切！ 1分1秒先を無駄にしないようにしよう。

今現在、私は愛媛県の道後ミュージックに出演しています。3月の大阪から旅がスタートして、熊本、小倉、十三、道後、また大阪に帰って関西ニューアート、そしてまた十三さんにお世話になって、関東に出演してやつとオフかな。6月はお世話になってる岡崎銀映さん、名古屋銀映さんに出演させていただく予定です。みなさんにお会いできるのも楽しみだな。それではまた。

